

校長室だより
NO. 44
令和2年1月7日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

「信じよう わたしのやればできる力」の自覚化に向けて

あけまして おめでとうございます。

いよいよ令和2（2020）年の始まりです。今年の干支は「庚子」と言われます。「干支」の「干」が10種（十干）ある中で「庚」、 「支」が12種（十二支）ある中で「子」となり、この2つを組み合わせています。つまり、干支と言うと組み合わせは60通りあり、60年で一巡するということになります。60歳を還暦と言うのはそんな理由からです。

それでは、この「庚」「子」は、どんな意味があるか調べますと、「子は始まる」、「庚は終わり」ということで、何となく反対のことを言っているようです。そのため、さらに調べますと、安岡正篤著『干支の活学』

（プレジデント社）が参考になりました。この安岡正篤（1898～1983）という人物は、戦後の歴代首相の指南役を務めた有名な思想家です。安岡が言うには、「子」は「増える」という意味があるようです。子は動物で言えば「ねずみ」です。ねずみは繁殖力が高くて、どんどん増えるというように意味は合っているようですが、実は十二支の動物は後で付けられたと言われますので、ねずみだからということではないようです。つまりは、子には「増える」という意味があったようです。次に「庚」はもともと「更」だと言われているようです。この「更」は、「かえる、かわる、あらためる、さらに、そのうえ、深まる、ふける……、」の意味があります。変更とか、更改とか、更新とか、よく使う言葉ですので、だいたいのイメージは分かります。

そうすると、今年の干支には「始まり」と「終わり」という意味があって、さらには「増える」、そして「変わる」ことになるわけです。そんなことから、実質的な「0スタート」ではなく「改める」という意味ことになります。これは、もちろん過去を無視することはできませんので、これまでを振り返りつつ、今後の道を計画する年と考えることができます。発展のための計画になれば最高で、新たな芽吹きと繁栄の始まりとも、新しい時代の潮流の始まりともなりましょうか。さらに言えば、新しいことを始めると上手くいく、大吉であるということもできます。偶然にも東京オリンピック・パラリンピックのある年でもあり、今後の発展については楽しみは増大ということになります。

そして、10年後に振り返ることがあったら、今年がその出発の年になっていたなんて思えるとよいですね。それが令和2（2020）年の正しい考え方であり、過ごし方なのかもしれません。そんな気持ちを持ち続けられれば、きっとよい年になるの

庚子
かのえね



園芸部の梅園展出品作品

ではないでしょうか。

さて、本日より梅園小学校の3学期がスタートしました。新しい令和2年への前向きな思いを持って、まずは3学期を過ごしていきたいと思います。3学期は、これまでの「まとめ」の時期と言われますが、まとめという曖昧な捉えではなく、1・2学期での学びの成果を発揮する学期としたいと思います。学びの成果とは、本年度のスローガンである「信じよう わたしのやればできる力」を具現化し、子ども一人一人がそれを自覚することができるようにすることになります。

その第一歩が、次の2学期末のある教師の指導記録の内容が参考になります。まずは、子どもたちの生活の正常化からです。このような地道な活動なしには、子どもの成長はないかもしれません。

2学期は行事も多かったので、授業とのけじめをつけるようにしました。学芸会の練習をしてからの授業でも切り替えて学習をするようにしました。そのため、子どもたちも切り替えを早くして、時間を見て動くことができるようになってきたと思います。また、家庭との連絡を密にして、やるべきことはきちんとできるようにしました。具体的には、連絡帳を毎日、確認し、今日の様子を書くようにしました。朝は、家庭で見てもらったかも確認しました。そのような繰り返により、やるべきことはやろうとすることを自覚できるようになってきました。まだまだ課題はありますが。



4年生の卒業式に飾るサクラ草

子どもたちにとっての「わたしのやればできる力」とは、やはり授業の中での学びにあります。それには、子どもたち自身が、授業に向かう姿勢を新たにしていけるようになります。そこには、教師の適切な働きかけが必要になってくることを、上の指導記録は述べています。言葉で話して、子どもに確実に伝わっていけばよいのですが、なかなかうまくいかないこともあります。1つ1つ確実にかつ丁寧に取り組んでいかなければなりません。また、家庭との連絡を取りながら信頼関係を保っていく大切さについても触れられています。そのような繰り返しの中で、子どもは着実に育っていきます。そして、「わたしのやればできる力」を身に付け、それを信じ、次へ挑戦していくことでしょう。

3学期の主な行事としては、1月は書き初め会、なかよし集会、2月はなわとび大会、1/2成人式(4年)、やれ検、学力検査があります。そして、2月下旬から3月へと卒業に向けた行事が始まり、ありがとうの会、卒業を祝う会、お別れ式・卒業式、修了式へと向かっていきます。その中では、自分の目標に向けて努力してきた成果を発揮したり、自分自身やこれまでの活動を振り返り、自分の決意を明確にしたりしていきます。また、その過程ではまわりに感謝する活動も伴っていくことでしょう。その中で、子どもは人間的にも成長していくことを期待しています。

小学校の教育活動は、6年間のスパンの中でいかに子どもを育てるかにありますが、それは、1年ごとの積み重ねにあります。ある意味で、本年度4月にスタートしたこの1年の集大成が3月末の子どもの姿と言えます。どの子どもにもその子らしさを自覚できるようにしたいものです。「信じよう わたしのやればできる力」に向けて。